



上海事務所

NCB 海外レポート

『中国社会』 デジタル化最新事情 ⑩

～中国で導入された「掌紋（手のひら）認証決済サービス」とは～

◇ はじめに

- ・ キャッシュレス社会として有名な中国ですが、ここ最近、新たな決済手段として、掌紋認証による決済サービス（以下、掌紋決済）が一部地域で導入されています。今回は、中国で注目を集める掌紋決済に焦点を当て、同サービスの概要や現地での導入事例についてお伝えします。

◇ 掌紋決済とは？

- ・ 掌紋決済は、生体認証による決済方法の一種であり、文字通り「手のひら」を決済端末のスクリーンにかざし、個人を識別することで決済が完了する仕組みです。現時点では、北京市の地下鉄（一部区間）や広東省深圳市の大手コンビニエンスストアで導入されています。
- ・ また、掌紋認証は、顔認証や指紋認証などの他の生体認証と比べて、手のひら全体の血管の形状で個人を識別するため精度や安全性が高く、偽装される危険性が低いと言われています。

◇ 掌紋決済を導入した北京市地下鉄の駅の様子

- ・ 北京市内と空港を結ぶ地下鉄では、2023年5月から掌紋決済による乗車券購入が可能となっています。なお、乗客はあらかじめ駅構内に設置されている専用機械で掌紋を登録後、「We Chat pay」（中国のスマホ決済アプリ）の個人アカウントと紐づけることで利用可能です。
- ・ また、掌紋決済の導入により従来のIC乗車券の購入やスマホでのQRコードの読み取りが不要となるため、より一層利便性が高まるほか、非接触のため感染症対策にも有効とされています。



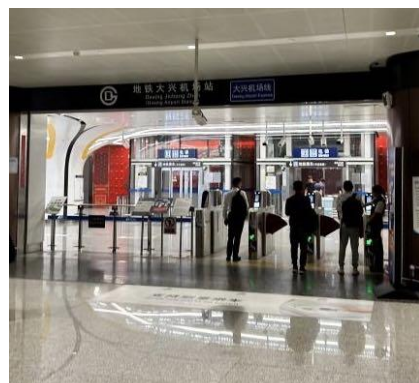
掌紋を登録する機器
（駅構内）

- ・ 登録後、乗客は掌紋決済による乗車代金の支払いが可能。



地下鉄の改札口

- ・ 改札口で掌紋をスキャン後、ゲートを通することが可能。



地下鉄「大興空港線」の駅構内

- ・ 現在、当駅を含め3つの駅で掌紋認証での決済が可能。

※写真は上海駐在員事務所に撮影

◇ まとめ

- ・ 中国では、モバイルから今回ご紹介した掌紋認証にいたるまで、様々な方式による決済サービスが導入されており、消費者の選択肢も多様化しています。
- ・ 今後は、中国のキャッシュレス分野の更なる発展に伴い、現金はもとより、スマホさえも不要になる「完全手ぶら」での決済が主流となる日も近いのかもしれません。

2023年9月20日作成

西日本シティ銀行 上海駐在員事務所